

主体的に学ぶ（知）		かなり当てはまる	まあ当てはまる	あまり当てはまらない	ほとんど当てはまらない	令和2年度 2学期末 学校アンケート					
						0%	20%	40%	60%	80%	100%
1	児童	今まで学習したことや経験したことを使って、自分で考えようとしている。	57.9%	39.5%	2.6%	0.0%					
	保護者	子供たちは、学習の課題に対して、今まで学習したことや経験したことを使って、自分で考えている。	36.8%	60.5%	2.6%	0.0%					
	学校評議員	子供たちは、学習の課題に対して、今まで学習したことや経験したことを使って、自分で考えている。	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%					
	教職員	子供たちは、学習の課題に対して、今まで学習したことや経験したことを使って、自分で考えている。	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%					
2	児童	自分の考えと比べて友達の発表を聞き、自分の考えを発表しようとしている。	51.4%	43.2%	5.4%	0.0%					
	保護者	子供たちは、自分の考えと比べて友達の考えを聞き、自分の考えを深めている。	36.8%	57.9%	5.3%	0.0%					
	学校評議員	子供たちは、自分の考えと比べて友達の考えを聞き、自分の考えを深めている。	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%					
	教職員	子供たちは、自分の考えと比べて友達の発表を聞き、友達の考えを深めている。	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%					
3	児童	学習で「分かったこと」「できるようになったこと」や、「疑問・やってみみたいこと」などを、ノートに書いたり、発表したりしている。	75.7%	21.6%	2.7%	0.0%					
	保護者	子供たちは、「分かったこと」「できるようになったこと」や、「疑問・やってみみたいこと」などを、ノートに書いたり、発表したりしている。	39.5%	55.3%	5.3%	0.0%					
	学校評議員	子供たちは、「分かったこと」「できるようになったこと」や、「疑問・やってみみたいこと」などを、ノートに書いたり、発表したりしている。	22.2%	77.8%	0.0%	0.0%					
	教職員	子供たちは、「分かったこと」「できるようになったこと」や、「疑問・やってみみたいこと」などを、ノートに書いたり、発表したりしている。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%					
4	児童	先生は、自分で考えたり話し合ったりすることができるように、学習の掲示や授業で使うものを工夫したり、困ったときに助けたりしてくれる。	83.8%	16.2%	0.0%	0.0%					
	保護者	教師は、子供の興味・関心を高めたり、生活場面を意識したりした授業を工夫している。	65.8%	34.2%	0.0%	0.0%					
	学校評議員	教職員は、子供の興味・関心を高めたり、生活場面を意識したりした授業を工夫している。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%					
	教職員	自分は、子供たちがゴールイメージをもてるような単元構想づくりや課題設定を行ったり、振り返りの内容が充実するよう支援をしたりした。	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%					
		自分は、子供たちの話し合いが深まり、考えが広がるように、話し合いの目的を明確にしたり、出番を考えて適切な支援をしたりした。	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%					
5	児童	家の人は、本読みを聞いたり、宿題で困ったときに助けてくれたりするなど、家での勉強を見てくれる。	81.6%	13.2%	5.3%	0.0%					
	保護者	家庭では、本読みを聞いたり、宿題に取り組む様子を見たりするなど、家庭学習ができるように、子供に促している。	28.9%	57.9%	13.2%	0.0%					
	教職員	家庭では、本読みを聞いたり、宿題で困ったときに助けてたりするなど、家庭学習ができるように、子供に促している。	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%					
考察（知）	<p>○「今まで学習したことや経験したことを使って、自分で考える」については、児童・保護者とも1学期末以上に高い評価（「かなり当てはまる」「まあ当てはまる」を合わせて95%以上）であった。「先生は、自分で考えたり話し合ったりすることができるように、学習の掲示や授業で使うものを工夫したり、困ったときに助けたりしてくれる」の項目で100%の児童が、また、「教師は子供の興味・関心を高めたり、生活場面を意識したりした授業を工夫している」の項目で100%の保護者が、「かなり当てはまる」「まあ当てはまる」と評価している。「教えられるのではなく、未知の状況にも既存の知識や経験で対応できる力」を育てるために力を入れて取り組んできた「自分の未来や社会とつながった学び」を意識した学習が成果に結び付いており、大変うれしい。今後も、子供たちが自分事として課題を捉え主体的に学習に取り組むことができるような単元構想づくりに努めていきたい。</p>										
	<p>○1学期末、2割近くの保護者が「あまり当てはまらない」「分からない」と評価していた「自分の考えと比べて友達の考えを聞き、自分の考えを深めている」の項目において、約95%の保護者から高い評価をいただいた。必然性のある話し合いとなるように生活場面を意識した課題を設定したり、子供たち一人一人が自分の意見をもって話し合いに参加できるように、一人学びやペア学習の時間を大切にしたりしている様子を、保護者の皆様に見ていただけたからこそこの結果だと考える。この項目において、児童の評価は1学期末とほとんど変わっていない。話し合いでは、答えのないものをみんなで見つけ出していくというプロセスを楽しみ、多様性を認めながら自分の考え方を高めていきたいと考えている。「何のための話し合いか」目的を明確にすることはもちろん、「話し合いって楽しいな」と実感できるような支援（助言、意見の整理、子供の考えの価値付け）をして、子供たちが満足できる学習にしていきたい。</p>										
	<p>○100%近く（「かなり当てはまる」が75%）の児童が、「学習で『分かったこと』『できるようになったこと』『疑問・やってみみたいこと』などを、ノートに書いたり発表したりしている」と評価。「学びに向かう力・人間性等」を付けていくために、「学習の最後に、学んだことや学んだことの意味、自分の成長、友達のよさなどを振り返る」ことを大切にしてきた成果だと考える。保護者の皆様には、日常的に子供のノートの「振り返り」の部分に目を通していただくことで、御家庭においても、お子さんの学びを知ったり価値付けたりしていただければと思う。</p> <p>○現在、90%以上の児童が、「家の人は、本読みを聞いたり、宿題で困ったときに助けたりするなど、家での勉強を見てくれる」と評価しており、85%以上の保護者が、家庭学習の習慣が身に付くように子供に促して下さっている。学校では、家庭学習においても、「何のためにこの家庭学習を行うのか」子供が家庭学習を行う意義を理解し、主体的に取り組むことができるようにしたいと考えている。そこで、一律の宿題から、子供たち一人一人が「今日何をしたらプラスになるか」を考えて取り組む学習となるよう、家庭学習の在り方を見直し、充実を図るための提案を今後していこうと検討中である。</p>										

自分らしく輝く（徳）			かなり当てはまる	まあ当てはまる	あまり当てはまらない	ほとんど当てはまらない	令和2年度 2学期末 学校アンケート							
			0%	20%	40%	60%	80%	100%						
6	児童	自分や友達のよいところや頑張っていることを見付け、きらっとカードに書いたり発表したりしている。	54.1%	37.8%	8.1%	0.0%								
	保護者	お子さんは、自分や友達のよいところや頑張っていることを、家族で話している。	36.8%	55.3%	5.3%	2.6%								
	学校評議員	子供たちは、自分や友達のよいところや頑張っていることを認め合っている。	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%								
	教職員	子供たちは、自分や友達のよさを見付け、書いたり発表したりしている。	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%								
7	児童	学習や遊びなどの場で、進んで友達と関わっている。	78.9%	15.8%	5.3%	0.0%								
	保護者	お子さんは、学習や遊びなどの場で、進んで友達と関わろうとしている。	31.6%	63.2%	2.6%	2.6%								
	学校評議員	子供たちは、学習や遊びなどの場で、進んで友達と関わろうとしている。	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%								
	教職員	子供たちは、学習や遊びなどの場で、進んで友達と関わろうとしている。	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%								
8	児童	自分の生活をよりよくしようと、生活を見直したり、明日葉カードの目標にして粘り強く取り組んだりしている。	76.3%	21.1%	2.6%	0.0%								
	保護者	お子さんは、自分の生活をよりよくしようと、生活を見直したり、目標に向かって粘り強く取り組んだりしている。	15.8%	65.8%	15.8%	2.6%								
	教職員	自分は、子供たちの生活をよりよくしようと自己を振り返る場を大切にしたり、目標に向かって粘り強く取り組むことができるように励まし支援したりしている。	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%								
9	児童	先生は、できること・得意なことが増えるように励ましたり、頑張ったことやよい行いを認め褒めたりしている。	84.2%	15.8%	0.0%	0.0%								
	保護者	教職員は、子供たちができること・得意なことを増やし自分のよさを見付けられるように、励まし支援している。また、よいところを認め褒めている。	55.3%	42.1%	2.6%	0.0%								
	学校評議員	教職員は、子供たちができること・得意なことを増やし自分のよさを見付けられるように、励まし支援している。また、よいところを認め褒めている。	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%								
	教職員	自分は、子供たちができること・得意なことを増やし、自分のよさを見付けられるように、励ましたり支援したりしている。また、きらっとカードを活用して、よいところを認め褒めている。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%								
10	児童	家の人、できること・得意なことが増えるように励ましたり、頑張ったことやよい行いを認め褒めたりしている。	78.9%	10.5%	10.5%	0.0%								
	保護者	家庭では、子供たちができること・得意なことを増やし、自分のよさを見付けられるように、励まし支援している。また、よいところを認め褒めている。	31.6%	60.5%	7.9%	0.0%								
	教職員	家庭では、子供たちのできること・得意が増えるように、励ましたり支援したりしている。また、子供たちのよいところを認め褒めている。	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%								
11	児童	自分のことが、好きである。	44.7%	39.5%	10.5%	5.3%								
考察（徳）	<p>○今年度から始めた毎月一回の「ほめほめウイーク」により「自分や友達のよいところや頑張っていることを見付け、きらっとカードに書いたり、発表したりしている」の項目は、今回も90%を超える高い評価（「かなり当てはまる」「まあ当てはまる」となった。この「ほめほめウイーク」では、教師も児童のよい表われを見付けきらっとカードに書いたり、放送で紹介したりしてきた。「先生は、できること・得意なことが増えるように励ましたり、頑張ったことやよい行いを認め褒めたりしている」の項目において、100%の児童が「当てはまる」と評価していることから、子供たちのよさや頑張りが客観的に価値付けられることは、子供たちにとって心地よく、自分に自信をもつことにつながっていると思われる。それは、95%の保護者が「お子さんは、自分や友達のよいところや頑張っていることを、家庭で話している」と評価していることから言えるのではないだろうか。</p> <p>○1学期末の結果と同様、100%近くの児童が、「学習や遊びなどの場で、進んで友達と関わっている」と評価した。実際、朝・昼休みの自由時間には、学年問わず楽しく遊んでいる様子が見られる。これは、午前中5時間授業により35分間の昼休みが確保されたこと、そして、6年生が下級生を外遊びに誘い、サッカー・鬼ごっこ・遊具遊びまで幅広い遊びで関わってくれたからだと考え。今後も小規模校のよさをより発揮できるように、多くの友達と関わる活動を実施していきたい。</p> <p>○100%近くの児童が、「自分の生活をよりよくしようと、生活を見直したり、明日葉カードの目標にして粘り強く取り組んだりしている」の項目において、「当てはまる」と評価した。子供たち一人一人の明日葉カードを見ても、2学期の間に4～5つの目標を達成している子が多く見られた。個に合っためあてを立てるよう支援したり、毎日評価し認め励ましたりすることで、子供たちも途中であきらめることなく、自分のめあてを意識した生活を送ることができたのではないかと考える。保護者の評価は80%ほどだったので、子供たちのよい表れや頑張りについては、便りや本読みカード、連絡帳等を通して家庭へ積極的に伝えていきたい。</p> <p>○「自分のことが好き」の項目については、「当てはまる」の評価が85%弱にとどまった。「当てはまらない」理由を尋ねると、「〇〇ができるようになりたいのにできないから」「もっと〇〇を頑張りたいから」など、理想とする自分を超越することができていないからだ分かった。しかし、よりよい自分になりたいと思うこと自体が自分のことが好きである証であることも、発達段階に応じて伝えていきたい。そして、よりよい自分になりたいという気持ちに寄り添い、子供一人一人の「輝き」を「認め褒める」を学校・家庭で共有することで、児童の自己肯定感を高め、「自分らしく輝く」子供たちを育てていきたい。</p>													

健やかな心・体をつくる（体）		かなり当てはまる	まあ当てはまる	あまり当てはまらない	ほとんど当てはまらない	令和2年度 2学期末 学校アンケート	
		0.0%	20.0%	40.0%	60.0%	80.0%	100.0%
12	児童	毎月の生活のめあてを意識して、自分から進んで挨拶している。	81.6%	15.8%	2.6%	0.0%	
	保護者	お子さんは、自分から進んで挨拶している。	34.2%	55.3%	10.5%	0.0%	
	学校評議員	子供たちは、自分から進んで挨拶している。	22.2%	77.8%	0.0%	0.0%	
	教職員	子供たちは、毎月の生活のめあてを意識して、自分から進んで挨拶している。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
13	児童	笑顔で、元気に生活している。	68.4%	31.6%	0.0%	0.0%	
	保護者	お子さんは、笑顔で元気に学校生活を送っている。	55.3%	31.6%	10.5%	2.6%	
	学校評議員	子供たちは、笑顔で元気に学校生活を送っている。	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%	
	教職員	子供たちは、笑顔で、元気に生活している。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
14	児童	体育の授業や昼休みには、体を動かすことを楽しんだり、自分の目標をもって運動したりしている。	68.4%	26.3%	5.3%	0.0%	
	保護者	お子さんは、体を動かすことを楽しみ、目標をもって運動に取り組んでいる。	50.0%	36.8%	10.5%	2.6%	
	学校評議員	子供たちは、体を動かすことを楽しみ、進んで運動に取り組んでいる。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	
	教職員	子供たちは、体育の授業や昼休みには、体を動かすことを楽しんだり、自分の目標をもって運動したりしている。	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
15	児童	毎日、早寝・早起きをしたり、朝食を欠かさず食べたりしている。また、メディアについての約束を守って生活している。	42.1%	44.7%	13.2%	0.0%	
	保護者	家庭では、早寝・早起きを呼び掛けたり、朝食を食べさせたりしている。また、メディアについての約束を守らせている。	26.3%	63.2%	7.9%	2.6%	
	教職員	子供たちは、毎日、早寝・早起きをしたり、朝食を欠かさず食べたりしている。また、メディアについての約束を守って生活している。	0.0%	85.7%	14.3%	0.0%	
考察（体）	<p>○「自分から進んで挨拶している」については、保護者が約90%、児童は95%を超える高い評価（「かなり当てはまる」「まあ当てはまる」となった。児童については、1学期よりわずかに下がってはいるものの、「かなり当てはまる」の評価が80%を超えている。2学期は挨拶に対する自己目標を立て、自己評価と他者評価ができるようにしたり、掲示板を活用しての挨拶の頑張りの「見える化」に継続して取り組んだりしてきた。何より、登校班のリーダーや高学年が率先して挨拶し下級生の模範となったことで、全校の子供たちの挨拶への意識が高い状態で維持できたと考える。</p> <p>気持ちのよい挨拶の声が響く学校となってきていることは、「笑顔で、元気に生活している」の項目において、児童の評価が100%なったことにもつながっていると考える。子供たちの心と体の健康状態を知るバロメーターでもある挨拶が、学校・家庭・地域へと広がっていくように、職員が率先して挨拶の声を掛けていきたい。</p> <p>○「体を動かすことを楽しみ、目標をもって運動する」については、約95%の児童が「当てはまる」と評価している。スポーツフェスティバルで保護者の皆さんには、サーキットやパス&amp;ラン、マット運動や縄跳びなど、日頃の体育の授業で積み上げてきた内容を見ていただいた。子供たちは、スポーツフェスティバルが終わってからも鉄棒や雲梯に取り組んだり、縄跳びの新しい技に挑戦したりするようになった。チャレンジ運動で、体育委員会の児童が縄跳びの技を見せて跳び方のコツを教える機会があったことも、縄跳びへの関心を高めることにつながったと考える。</p> <p>今後も、子供たちが「目標をもって、運動する」ことができるように、体育の時間には、運動の特性を踏まえたセット運動を取り入れたり、チャレンジ運動でいろいろな運動への関心を高めたりしていきたい。</p> <p>○「規則正しい生活習慣をつくる」に関わる項目については、児童の「かなり当てはまる」の評価が、1学期に比べて10%近く下がっている。毎月のすこやかチェックの結果を見ると、低学年はメディアに係る時間が改善されている一方で、4・5・6年生のメディア時間の増加傾向に改善は見られず、大きな課題となっていることが分かる。実際、夜遅くまでYouTubeなどの動画を視聴したりゲームをしたりといった生活の乱れが、朝気持ちよく起きられない、授業に集中できないことへつながっている。ネットには利便性やエンターテインメント性があり、日常生活に欠かせない存在となっているが、没頭するあまり睡眠障害や友人との触れ合い不足、抑うつ障害などのネット依存症に陥る危険が指摘されている。子供たちの落ち着いた生活リズムを取り戻すことができるように、学校と家庭が連携して個へ対応していきたい。</p>						

学校運営・学校体制・PTA			かなり当てはまる	まあ当てはまる	あまり当てはまらない	ほとんど当てはまらない	令和2年度 2学期末 学校アンケート				
			0%	20%	40%	60%	80%	100%			
16	保護者	学校は、子供のことについて相談がしやすい。	42.1%	50.0%	7.9%	0.0%					
	教職員	自分は、子供たちにとってよき相談相手となったり、保護者の要望に適切に対応したりしている。	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%					
17	保護者	家庭では、便りやホームページ、その他の方法で、学校の情報を得ることができている。	42.1%	50.0%	5.3%	2.6%					
	学校評議員	学校は、便りやホームページ、その他の方法で情報をよく発信している。	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%					
	教職員	自分は、学校の情報や子供の様子を、適切な方法で保護者や地域に発信している。	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%					
18	保護者	学校は、子供の安全確保のための取組を十分行っている。	60.5%	36.8%	2.6%	0.0%					
	学校評議員	学校は、子供の安全確保や健康管理のための取組を十分行っている。	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%					
	教職員	自分は、子供の安全確保のための取組が十分にできている。	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%					
19	保護者	家庭では、PTA活動テーマ「家族でいっぱいふれあおう」の学年で決めた活動に取り組んでいる。	10.5%	57.9%	26.3%	5.3%					
20	児童	午前中5時間授業は、よい。	78.4%	18.9%	2.7%	0.0%					
	保護者	学校は、午前中5時間授業のよさを生かして、教育活動を行っている。	57.9%	36.8%	5.3%	0.0%					
	学校評議員	午前中5時間授業は、教育的効果がある。	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%					
	教職員	午前中5時間授業は、教育的効果がある。	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%					
21	児童	昼休みは、自由時間として自分のペースで過ごすことができた。	81.1%	16.2%	2.7%	0.0%					
	教職員	昼休みには子供たちをできる限り拘束しないようにして、昼休みの時間の確保に努めた。	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%					
考察	<p>○「学校は、子供のことについて相談がしやすい」の項目で、「かなり当てはまる」の保護者評価が1学期より10%上がり、40%を超える高評価を得た。今後も、学校と家庭が思いを共有することで、社会に開かれた教育課程の実現を図っていきたい。</p> <p>○「学校は、子供の安全確保のための取組を十分行っている」の項目においては、「かなり当てはまる」「まあ当てはまる」を合わせて100%に至らなかった。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日々の子供たちの体温チェックやマスク着用、手洗い・手指の消毒など、新しい生活様式に関わる部分で御協力いただき、大変感謝している。子供の安全が第一である学校として、この項目に関しては100%の評価がいただけるよう、安全管理に努めていきたい。</p> <p>○午前中5時間授業については、95%を超える保護者の方に「かなり当てはまる」「まあ当てはまる」の評価をいただいた。午前中4時間授業の経験がある3年生以上の子供たちも午前中5時間授業が当たり前の生活となり、「午前中に集中して学習できるので、午後が気楽である。」「放課後の時間が多くなり、自分の時間がもてる。」「昼休みの時間が長くて楽しい。」など、午前中5時間授業のよさを挙げている。西気賀小だからできる午前中5時間授業が定着してきているので、今後も小規模校のよさを生かした教育活動を模索していきたい。</p> <p>○PTA活動テーマ「親子で運動を楽しもう」については、「かなり当てはまる」「まあ当てはまる」の評価が70%にとどまり、今年度は、PTAの活動テーマがなかなか浸透していないことが分かる。すこやかチェック週間にメディアに頼らないで過ごすために、お子さんと一緒に運動してくださった方もいらっしたので、ぜひ御家庭に合った運動を楽しんでいただきたい。</p>										